

一般会計決算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、令和2年9月11日に文教福祉分科会を開催しました。

## 認定第1号 令和元年度総社市一般会計歳入歳出決算認定

### ～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定

### ～質疑～

問：ひきこもり支援事業において、ひきこもりサポーター養成講座を実施しているが、受講者は何名であったか。また、受講者のうち何名が実際に活動しているのか。

答：平成28年度から養成講座を始め、今まで169名が受講している。そのうち77名の方がひきこもりサポーターに登録していて、45名が実際に活動している。活動率は58.4%である。

問：総社小学校の放課後児童クラブは1つなのか。同じ規模の常盤小学校は3つあるが、補助金を有効に活用し運営できているのか。また、運営にあたってどのような課題があるのか。

答：現在、児童クラブは総社宮の敷地内にあり、同じ場所に新たな施設を建てることは難しく、指導員の確保のこともあり、児童クラブは1つである。利用には欠席ロケーションや利用児童は3年生まで等の条件がある。今後、別に新たな施設を建てること等、より良い環境で運営できるよう検討していかなければならないと考えている。

問：母子父子自立支援員は1人しか配置がないが、近年の相談件数や訪問回数を考えると、十分対応できているのか。

答：多忙な状況ではある。相談は児童扶養手当の申請や就労相談など様々である。特に離婚相談は神経を使い、時間もかかる。母子保健係や家庭児童相談員と連携協力し対応している。

問：高梁川河川敷グラウンドと清音河川敷グラウンドの災害復旧工事の内容はどうか。大雨が降り冠水するたびに、8,800万円程度の費用がかかるのか。

答：どちらの工事も主なものは、芝生の張替えと野球場の整備である。冠水すると、芝生が根付いている部分は流されることはないが、野球場等の土の部分は流されてしまう。復旧工事の費用は、災害の規模によると考える。

問：介護予防拠点施設は4箇所あるが、新たに拠点施設を増やす考えはないのか。施設がない地域はどのように介護予防を進めているのか。

答：現在の施設は、合併前から引継いでいるものである。施設のない地域については、公

民館等でサロンや100歳体操を実施し、介護予防を進めている。

**問：小1グッドスタート事業の実績はどうか。事業を行っていない小学校の対応はどうか。**

答：小1グッドスタートは小学校1年生の30人以上のクラスに教育支援員を配置し、学習支援や日常生活支援を行っている。実績は、総社小4名、北小1名、常盤小4名、総社東小2名、合計11名の配置を行った。他の小学校は、学力向上加配事業の中で特別支援教育補助員を配置し、対応している。

**問：小中学校における大学連携の巡回コンサートの実績はどうか。予算の執行率が低いかどうか。**

答：大学連携の巡回コンサートは、中学校は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。小学校は計画していた5校はすべて実施できた。情操教育の一助となったと考えている。

**問：放課後学習サポート事業の実績はどうか。どのような効果があったのか。また、コロナ禍の中で実施状況はどうであったか。**

答：事業の目的は学習のつまずきの解消であり、実施校は小学校7校、中学校4校である。実績の延べ人数は、小学校が24,067名、中学校5,616名である。この事業は大変効果があり、実施している学校と実施していない学校を比べると、算数においては、平均点が0.8点の違いがある。毎年同じような傾向が見られる。コロナ禍の現在は、放課後学習サポートと日常サポートを同時に行い、新型コロナの影響で遅れがちな学習やつまずき等に対応している。